



TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】質実剛健 報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信 NO. 19 R6. 01. 08

文責 校長 下村 昌弘

E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp



学校 HP

22 世紀を生きるであろうみなさんへ マルチステージの時代へ

2025 年が明けました。みなさん明けましておめでとうございます。21 世紀も四半世紀を迎えるわけです。22 世紀もあつという間に来るのかもしれません。

カリフォルニア大学の研究で、日本は世界一の長寿社会であり、2007 年に生まれた子どもが 107 歳まで生きる確率は 50%だと報告されていました。この数字の詳細な解釈はよく分からないところもありますが、人生 100 年時代とはよく言ったものです。皆さんの中の一定数の人たちは多くは間違いなく 22 世紀を見ることになるのでしょう。

これからの時代はマルチステージの時代です。25 歳くらいまで勉強して職に就き、65 歳くらいで引退して老後を過ごすという従来の 3 ステージの時代は終わりを告げようとしています。人生 100 年、生きる時間が長くなるということは、学んである仕事につき、また学び直して別の仕事を起こす…といった繰り返しが自然に起きてくるのです。



だからこそ肩ひじ張らずに“学び続ける”という姿勢を身に付けなければなりません。「勉強」を“大したこと”と思わず日々習慣として自然な“型”にしたいものです。

冬休みに学んだこと ー成長のカギはやはり“抽象化”だった！ー

冬休みに言語学者の今井むつみ氏の『言語の本質』(中公新書)に学びました。

言葉はどのように獲得されるのか。AI の学び方は膨大なデータを最初から与えられてそのパターンを分析するというやり方です。一方、人間（赤ちゃん）は限られた情報処理能力しかなく、自分が今処理できる情報しか入れられません。それを少しずつ広げてゆく。それが人としての成長です。



また、AI には洞察の力は一切ありません。あくまで統計的なパターンで処理をします。視覚情報を触覚、嗅覚などと繋げようとしてはいますがそれも数値としての学習です。感覚のネットワークはありません。感情は紐つけられないのです。一方、子どもが発達するうえで大事なのは「自分でいろいろな仕組みを捜して、ある種の洞察を経て発見して自分の今ある知識の状態よりも一段抽象化された、一段上の段階に自分で自分を持っていくこと」(前掲書)にあるそうです。

人間は“なぜ”を問えるが、AI は問わない。人間は因果を突き詰めようとしますが、AI は同義を引っ張り出すことしかしません。どうやらここに人間の強みがありそうです。

また、同氏の『学力喪失』(岩波新書)には「言葉というものは抽象的な記号の集まりで、これを学習することは凄いことだ」とありました。大人はその学習の手助けはできるが言葉そのものを教えることはできない。赤ちゃんは自分の力で様々な仕組みを見つけ、洞察し、

自力で言葉の抽象度を上げて行って、概念を学習していくそうです。

例えば、分数の意味が判っていない小学校5年生がいたとします。大人は「説明したら判るでしょ」と思うけれども子どもからするといきなり抽象的なことを言われてもずっと頭に入って来ない。要は、自分で感覚的に数を操作したり体験したりしてそこから自分で抽象化するしかないのです。そういう経験が足りていないから、“記号設置”（「記号」（抽象的な考え方）と「実世界」を結びつける）が出来ずに分からなくなってしまうわけです。

“抽象化”は人の頭の成長にとって大事な力なのですが、人から与えられるものではなく、自分で獲得していくしかないものです。

そこで「つまり～ということだよな」「～ということは～と言えるのではないかな」といった型を常に念頭に置いて自分の言葉で言い換えていく癖を鍛えてはいかがでしょうか。

武雄高校は“主体性”と“探究”を大切にしています。眼前のミッションを正面から引き受け自分の頭で考え自分の言葉で抽象化する。この修養を今年も積んでいきましょう。

子どもは主体性かたまりだ！ ― “うれし”・“たのし”・“だいすき”！ ―

本校はコミュニティスクールです。それを支える学校運営協議会の会長、岡本忠裕氏（本校41回卒、高峰寺住職・あさひこども園園長）は「子どもは主体性のかたまり。なんでも手に取るし気に入ったら口に入れてみようとする」「園ではうれしい、楽しい大好きを大切にしている」と仰っています。

昨年末、1年生は家庭科の授業の一環として「育ちあい講座」を企画・実践しました。おそらく上級生も経験済みですのでその感覚は分かるでしょう。ある人の感想文です。

園児の行動を見ていると、僕たちがなんとも思わないところに着目して、遊びを見つけたり、何も無いところに楽しさを見出したりするのがうまいと感じた。

いい着眼点です。まさに子どもの主体性・自主性を感じたわけです。しかし、考えてみれば、みんなも、もともとはこんな“子ども”だったわけです！ 夢中になってどろんこ遊びに熱中したりままごと遊びに熱中していたわけです。そういう主体性の根っこみたいな部分はきっと皆さんの中にも残っているはずですよ。それをうまく生かしたいものですね。

人間、何歳になっても“うれし”“楽し”“大好き”が力の源なのかもしれません。



やっぱりそうだ あなただったんだ うれしい！ たのしい！ 大好き！

何でもできる強いパワーが どんどん湧いてくるよ！『うれしい！ たのしい！ 大好き！』 DREAMS COME TRUE

【当面の主な予定（1月前半）】

- 4日（土）共通テスト演習（3年）5日まで
- 6日（月）冬季補習（全学年）7日まで
- 8日（水）始業式
- 11日（土）県一斉模試（1・2年）12日まで（2年）土曜セミナー（3年）
- 14日（火）月曜セミナー（1・2年）

まだ間に合います！
できるだけインフルエンザワクチンの接種を！
校医の先生がおられる古賀内科（小楠0954-22-3135）は武高生によくしていただけますよー。本校OBの先生です。



（閑人閑話）最近夢見がよくない。うなされるというほどではないが、焦った気持ちで目を覚ます。▼例えば授業の夢。うっかり授業をすっばかして生徒が残る五分の時に呼びに来る。怒るに怒れず悶々とする夢。▼例えば弓を引く夢。人前で弓を引くことになった方がいいが、全く稽古できず、いきなり本番。しかし、道具を忘れ、道場にある他人の物を拝借して臨もうとするもサイズが合わない。時間は迫る。焦りとあきらめて悶々とする夢。▼何かに追い詰められて悶々とする夢。▼何かに追いつけない。過去のそういう場面を迎えるので、校長としての仕事は終わりを迎える。想起してしまうのかもしれない。昨日なんか布団に入ってから眠いのには学生時代のことを走馬灯のごとく思い出してこのまま起きちゃうんじゃないかと思った。▼みなさんの初夢はどうだっただろう。一富士、二鷹、三なすび。そんな夢を見た人は世の中にどれくらいいるのだろうか。▼とりあえず高校時代に読んだフロイトの『夢判断』でも読み返してみる。「夢とは潜在的な願望を充足させるものである。つまり夢は無意識による自己表現」。そうなのか。▼お正月にいい夢見た人もそうでない人も、それぞれの夢を現実になえましょう。今年もよろしくお祈いします。（弓口）